

光赤天連シンポ2017 (2017/7/24-26, 国立天文台三鷹)



セッション: 大学などによる中小プロジェクトと国際協力

私の海外での研究滞在と 国際共同研究の経験から 思うこと

児玉 忠恭 (東北大学天文学教室)



昔のESO本部(Garching)

歴史は繰り返す

指導教員： 有本信雄氏（海外で10年：仏ムードン天文台、**英ダラム大**、独ハイデルベルグ大
＋**すばるヒロオフィス**5年）

自分自身： 計4年4ヶ月を海外で研究
海外学振 英ケンブリッジ大（2年間）
学振 **英ダラム大**（1.5年間）
在外研究 **独ESO本部**（6ヶ月）
客員教員 オーストリア ウィーン大（1ヶ月）
＋**すばるヒロオフィス**（3年間）

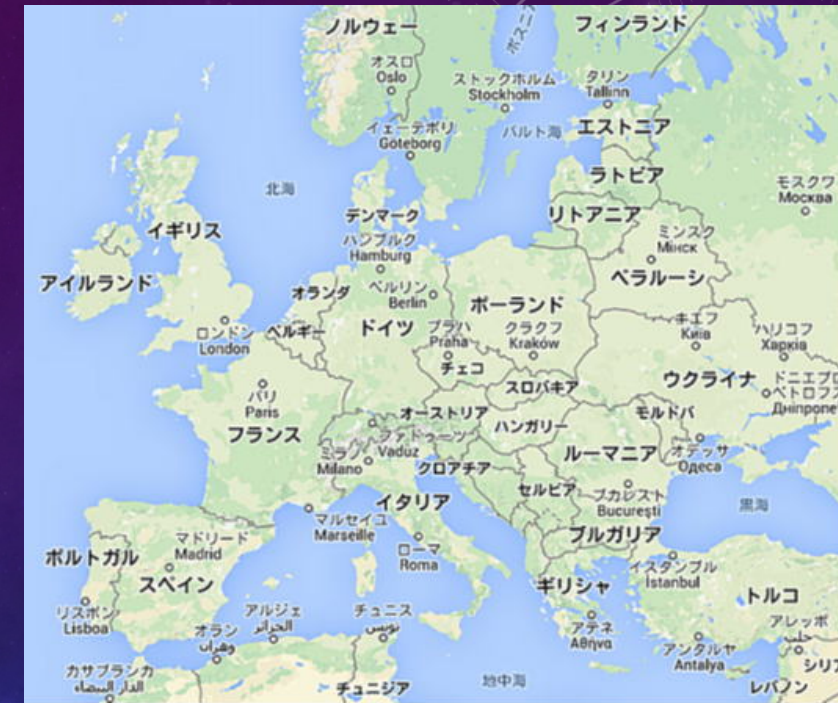
指導学生： 仲田史明： 現地ポスドク **英ダラム大**（2年間）
田中賢幸： ESOフェロー **独 ESO本部**（3年間）
小山佑世： 学振 **英ダラム大**（1.5年間）、**すばるヒロオフィス**（2年間ー）
但木謙一： 現地ポスドク **独 MPE**（2年間）
嶋川里澄： 総研大院生 **すばるヒロオフィス**（3年）
総研大インターン 米Caltech（3ヶ月）
海外学振 米UCSC（2年間予定）
鈴木智子： 総研大インターン 豪ANU（3ヶ月）



ダラム大聖堂

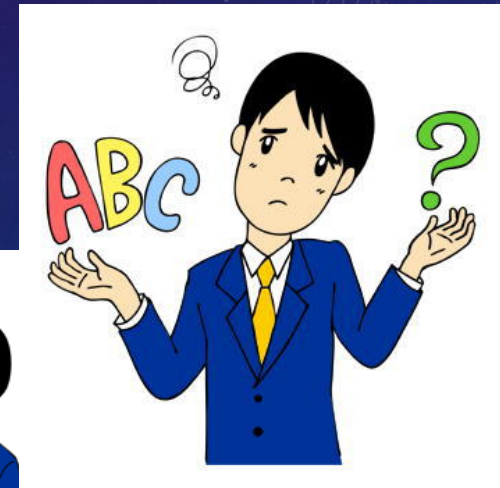
海外に出るメリット

- 世界の最先端研究に身近に触れる
(ビジターが多く、ワークショップなども頻繁)
- スタッフや同グループの人と世界第一線の共同研究を推進する
- ヨーロッパ中の研究会に簡単に参加できる(安く、時差ボケもない) (もちろんヨーロッパ滞在の場合)
- 意識の高い同僚や研究者に囲まれて、セミナーや日々のコーヒータイムなどで鍛えられる
- 英語が上達する → non linear! 交渉力もアップ(聞いてくれる)
- 日本の良さを客観的に認識できる
- 自分を知る、再発見する



英語について

- 最低2年の滞在(辛抱)が必要
 - (0年にして志し、1年にして聞く、2年にして立つ、3年にして惑わず、4年にして耳順う)
- 単身で行き、現地でパートナー獲得が最も上達が早い
- 上達は渡航中だけでなく、むしろ帰国後に続く(定着化)
- (独り言) アジア人は敷居が低い。イタリア人はフレンドリー or 暗い
イギリス人は紳士的だが表面的。ドイツ人は真面目だがしたたか。
フランス人はプライドが高い。アメリカ人は競争好きでプライドが高い



海外に出るデメリット

- 日本でのビジビリティーが下がる(論文を書いているとフォローはしてもらえが、宣伝があまりできない)
- 生活に置いて、サービス意識が低く、自分から言わないと何もやってくれないし、言っても時間がかかる
- 日本食が恋しくなる
- 家族や知人が遠くなる
- レイズムを感じることもある(?)
- 場所によっては、天気や食事など生活の質に苦労する場合もある(?)
- 髪型が変になる





有本信雄さん38歳？

ネス湖、スコットランド



イギリス、ダーラム大 (1988-1991)

日本に居てもすばるやアルマが使えるのにわざわざ海外？

私が20年前にイギリスに渡航した時は、すばるはまだ無かった！
ケックやハッブル宇宙望遠鏡がデータを出し始めた頃で、海外に行くモチベーションが高かった

- (利点)
- すばるへのアクセス(日本人ならどこにいてもいい)
- VLTへのアクセス(南天へのアクセス、ALMAとの連携観測に重要)
- ハワイ大やカトリカ大ならそれぞれマウナケアとチリの観測所群の観測時間が地代の分多く使える

- (欠点)
- ALMAへのアクセス(EAが有利。ヨーロッパ枠は特に厳しい)
- Keckへのアクセス？(ポスドクはPIで申請できないし、すばるとの交換枠にも出せなくなる？)



何を持って行くか？

- パスポートと現地通貨
- 日本土産(アジア人文化！)
- やる気(楽しみか？)
- 現状(研究環境や日本社会)への不満
- 日本文化の知識
- 何らかの研究成果(手土産)(草の根)

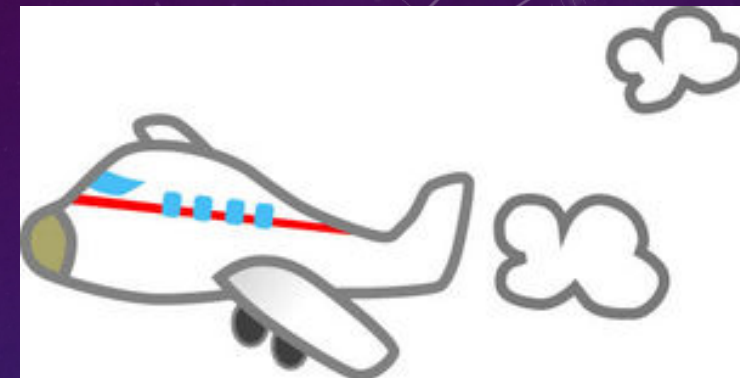


何を持って帰るか？

- 研究者ネットワーク(知り合い、友達) = 将来のコネの卵
- 共同研究
- 憧れだった外国の負の点(にも気づく目)
- 日本文化・社会へのより良き理解



院生、ポスドクをどう海外に送るか？



って言われても、皆さん意欲的に行かれるのを手伝っているだけです。。

でも、
常日頃から、「一度は海外に出た方がいいよ」と言うとか、
海外の研究会に参加を促して、外の世界を見させる、
とかは、結構しています。

本人がその気になった時には、
一緒に渡航先を考えたり、
その研究者にコンタクトをとったり、
セミナーや国際研究会で発表をさせたり、
逆に日本に人を呼んでワークショップをしたり、
推薦書を書いたり
します。この時に自分の海外滞在歴(コネ)が大いに役立ちます。

あとは何より、上を見て育つ(後に続く)効果が大きい？

仲田史明：現地ポスドク 英ダラム大(2年間)
田中賢幸：ESOフェロー 独 ESO本部(3年間)
小山佑世：学振 英ダラム大(1.5年間)
すばるヒロオフィス(2年間一)
但木謙一：現地ポスドク 独 MPE(2年間)
嶋川里澄：総研大院生 すばるヒロオフィス(3年)
総研大インターン 米Caltech(3ヶ月)
海外学振 米UCSC(2年間予定)
鈴木智子：総研大インターン 豪ANU(3ヶ月)

おわり



かわいい子には旅をさせましょう！